

予算決算常任委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和6年9月2日（月） 議場
2. 出 席 委 員 赤木忠徳委員長 近藤久子副委員長 谷口隆明 横路政之 宇江田豊彦 坂本義明
堀井秀昭 福山権二 徳永泰臣 政野太 五島誠 桂藤和夫 藤木百合子 藤原洋二
吉川遂也 國利知史 松本みのり 前田智永 坪田朋人
3. 欠 席 委 員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説 明 員 島田虎往総務部長 福本敬夫財政課長 高浦光司財政課財政係長
6. 委員外議員 なし
7. 傍 聴 者 2名（うち議員 林高正議長）
8. 会議に付した事件

1 付託議案

- 議案第80号 令和5年度庄原市一般会計歳入歳出決算認定について
議案第81号 令和5年度庄原市住宅資金特別会計歳入歳出決算認定について
議案第82号 令和5年度庄原市歯科診療所特別会計歳入歳出決算認定について
議案第83号 令和5年度庄原市休日診療センター特別会計歳入歳出決算認定について
議案第84号 令和5年度庄原市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
議案第85号 令和5年度庄原市国民健康保険特別会計（直診勘定）歳入歳出決算認定について
議案第86号 令和5年度庄原市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
議案第87号 令和5年度庄原市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
議案第88号 令和5年度庄原市介護保険サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について
議案第89号 令和5年度庄原市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について
議案第90号 令和5年度庄原市浄化槽整備事業特別会計歳入歳出決算認定について
議案第91号 令和5年度庄原市宅地造成事業特別会計歳入歳出決算認定について
議案第92号 令和5年度庄原市下水道事業会計決算認定について
議案第93号 令和5年度庄原市国民健康保険病院事業会計決算認定について
議案第94号 令和5年度庄原市比和財産区特別会計歳入歳出決算認定について

午後2時10分 開 議

○赤木忠徳委員長 これより予算決算常任委員会を再開いたします。ただいまの出席委員は19名であります。よって、直ちに本日の会議を開きます。本日の会議におきまして、傍聴、写真撮影、録音、録画を許可しています。

1 付託議案

- 議案第80号 令和5年度庄原市一般会計歳入歳出決算認定について
議案第81号 令和5年度庄原市住宅資金特別会計歳入歳出決算認定について

議案第 82 号 令和 5 年度庄原市歯科診療所特別会計歳入歳出決算認定について
 議案第 83 号 令和 5 年度庄原市休日診療センター特別会計歳入歳出決算認定について
 議案第 84 号 令和 5 年度庄原市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
 議案第 85 号 令和 5 年度庄原市国民健康保険特別会計（直診勘定）歳入歳出決算認定について
 議案第 86 号 令和 5 年度庄原市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
 議案第 87 号 令和 5 年度庄原市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
 議案第 88 号 令和 5 年度庄原市介護保険サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について
 議案第 89 号 令和 5 年度庄原市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について
 議案第 90 号 令和 5 年度庄原市浄化槽整備事業特別会計歳入歳出決算認定について
 議案第 91 号 令和 5 年度庄原市宅地造成事業特別会計歳入歳出決算認定について
 議案第 92 号 令和 5 年度庄原市下水道事業会計決算認定について
 議案第 93 号 令和 5 年度庄原市国民健康保険病院事業会計決算認定について
 議案第 94 号 令和 5 年度庄原市比和財産区特別会計歳入歳出決算認定について

○赤木忠徳委員長 本委員会への付託案件について、議案第 80 号、令和 5 年度庄原市一般会計歳入歳出決算認定の件から、議案第 94 号、令和 5 年度庄原市比和財産区特別会計歳入歳出決算認定の件までを一括審査することといたします。これに異議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○赤木忠徳委員長 異議なしと認めます。よって、そのように決定いたします。審査の方法については、常任委員会の所管事務の例による区分により分科会で審査することを 8 月 5 日の本委員会で確認しているので、本日は説明を受け、全体質疑のみを行います。これより執行者から説明を受けます。総務部長。

○島田虎往総務部長 先ほどの本会議で上程いたしました、議案第 80 号、令和 5 年度庄原市一般会計歳入歳出決算認定から、議案第 94 号、庄原市比和財産区特別会計歳入歳出決算認定までの 15 会計の決算認定について、御審議をよろしく願います。内容については、決算審査参考資料①、令和 5 年度決算の概要により、財政課長から総括的な説明をさせます。

○赤木忠徳委員長 財政課長。

○福本敬夫財政課長 それでは、決算審査参考資料①、令和 5 年度決算の概要、及び決算審査参考資料②、令和 5 年度市町村普通会計決算カードにより、令和 5 年度決算の概要について御説明いたします。まず、決算審査参考資料①、決算の概要の 1 ページをお開きください。先ほどの市長説明と重複する部分がありますが、御了承ください。令和 5 年度一般会計決算の状況については、歳入が 332 億 8,194 万円、歳出が 326 億 7,718 万円で、翌年度への繰越財源を差し引いた実質収支は 4 億 8,195 万円となりました。普通会計の決算概要について御説明しますので、もう一部の決算審査参考資料②、決算カードをごらんください。この決算カードでお示ししている普通会計については、総務省において他の団体と比較が可能となるよう統一基準を設けており、庄原市の普通会計では、一般会計と住宅資金特別会計、歯科診療所特別会計、休日診療センター特別会計を合わせたものから、歳入歳出の繰り出し、繰り入れの重複分を控除したものを普通会計ベースとしています。普通会計における単年度収支です。2 ページ、上段の表をごらんください。6 番に記載している令和 4 年度の実質収支が多額だったこと

から、単年度収支は3億5,179万8,000円の赤字となっています。また、9番の積立金取り崩し額で財源調整として3年ぶりに財政調整基金から2億円を繰り入れたことにより、10番の実質単年度収支は1億2,707万4,000円の赤字と、3年ぶりの赤字となっております。また、右側の中段には、経常収支比率を記載しており、令和5年度決算では97.9%と、前年度比で1.1%上昇しています。この要因です。4ページをごらんください。まず、性質別歳出の経常一般財源、L欄に計上している176億9,111万7,000円を3ページの歳入経常一般財源、K欄の合計180億6,463万3,000円で除した数値が経常収支比率となります。歳入については普通交付税の増額などにより前年度比で約1億3,400万円の増額となっておりますが、歳出については労務単価の上昇、資材価格の上昇などにより物件費が増額となったこと、人事院勧告に基づく職員給の改定、消防団員の処遇改善のための団員報酬の見直しなどにより人件費が増額となったことなどを要因に前年度比で約3億4,000万の増額となっております。こうした要因により経常収支比率が上昇しています。それでは、再度、決算の概要に戻ってください。2ページ、市債の発行額です。発行額全体で26億4,191万円と、庄原自治振興センター改修事業や新焼却施設整備事業の完了による減額等により、前年度と比較して2億6,574万円の減額となっております。また、市債残高ですが、前年度比17億2,068万円減の353億7,056万円となっております。実質公債比率ですが、11.4%となっており、数値が0.1%上昇しています。市債残高は前年度比で減少しましたが、3カ年平均では令和5年度の単年度比率が令和2年度の単年度比率を若干上回ったことで3カ年平均により0.1ポイント数値が上昇したことが要因です。続いて、3ページ、4ページをごらんください。歳入決算の概要について取りまとめています。歳入決算の概要については、主立ったもののみ御説明します。①市税、④地方交付税については後ほど御説明します。⑤国庫支出金ですが、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の増額などがありましたが、社会資本整備総合交付金や新型コロナウイルス感染症の地方創生臨時交付金などが減額となったことで、前年度比6億3,207万円、率にして12.1%の減となっております。⑥県支出金ですが、過年農業用施設災害復旧事業補助金、過年農地災害復旧事業補助金の増額などにより、前年度比4億6,595万円、率にして13.3%の増となっております。⑦繰入金ですが、財政調整基金の繰り入れが増となったものの、地域振興基金の取り崩しが皆減となったことなどから、前年度比3億5,994万円、率にして36.2%の減となっております。⑧諸収入ですが、広島県水道広域連合企業団からの派遣職員人件費負担金の増額などにより、前年度比1億1,078万円、率にして33.9%の増となっております。⑨市債については、先ほど説明したとおり、前年度比2億6,574万円、率にして9.1%の減となっております。続いて、5ページをごらんください。市税について御説明いたします。まず、法人市民税がコロナ禍からの回復で903万円の増額となったほか、固定資産税が大規模小売店舗の出店、太陽光発電施設の稼働の影響により4,308万円の増額、入湯税が259万円、市たばこ税が160万円の増額となるなど、市税全体では、前年度比4,785万円、率にして1.2%増の38億8,674万円となっております。続いて、6ページをごらんください。地方交付税について御説明いたします。まず、普通交付税ですが、公債費分の算入額が増加したことに加え、臨時財政対策債償還基金費や臨時経済対策費などの追加交付があり、前年度比で1億2,699万円、率にして1%増の123億9,075万円となっております。特別交付税については、除雪事業に係る交付金の減少などにより、前年度比2億2,098万円、率にして10.2%減の19億5,414万円、地方交付税全体では9,399万、率にして0.7%減の143億4,489万円となっております。臨時財政対策債については、交付税総額が不足する場合に不足額を補填するための地方債ですが、前年度比で9,514万円、率にして

54.6%減の7,911万円の発行となっています。続いて、7ページ、8ページをごらんください。歳出決算の概要について、款別で取りまとめています。このうち、主立ったもののみ御説明いたします。

②総務費ですが、庄原自治振興センター整備事業の完了による減額などにより、前年度比6億6,534万円、率にして16.2%の減となっています。

③民生費ですが、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付事業を活用した低所得世帯への給付金等の増額などにより、前年度比1億5,433万円、率にして2%の増となっています。

⑥農林水産業費ですが、栗頭首工改修工事などの基盤整備促進事業や水路維持修繕、農道舗装工事などの小規模農業基盤整備事業の増額などにより、前年度比1億3,683万円、率にして5.7%の増となっています。

⑦商工費ですが、キャッシュレス決済推進事業や交流宿泊施設整備事業の減額などにより、前年度比2億8,410万円、率にして22.6%の減となっています。

⑧土木費ですが、除雪事業の減額などにより、前年度比3,210万円、率にして1.1%の減となっています。

⑩教育費ですが、市民会館整備事業の完了などによる減額により、前年度比9億1,346万円、率にして29.9%の減となっています。

⑫災害復旧費ですが、過年公共災害復旧事業、過年農業用施設災害復旧事業など過年災害事業が順調に進捗したこと、前年度比で8億4,236万円、率にして30.3%の増となっています。

⑭諸支出金ですが、減債基金の積み立ての増額などにより、前年度比5,479万円、率にして10.9%の増となっています。続いて、9ページ、10ページをごらんください。同じく歳出決算の概要ですが、性質別で取りまとめています。このうち、主立ったもののみ御説明いたします。

②物件費ですが、除雪経費が減額となったことなどにより、前年度比で2億6,599万円、率にして5.8%の減となっています。

④扶助費ですが、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付事業の増額などにより、前年度比2億4,810万円、率にして6%の増となっています。

⑥普通建設事業費ですが、市民会館及び庄原自治振興センター等の大規模改修事業の完了で皆減となったことなどにより、前年度比で14億6,873万円、率にして28.8%の減となっています。

⑦災害復旧費ですが、先ほど来申し上げているように工事が順調に進んだことで、8億3,977万円、率にして30.2%の増となっています。続いて、11ページ、12ページです。市民1人当たりの決算状況及び市債残高について記載をしていますのでお読み取りください。続いて、13ページです。参考資料として、エネルギー価格・物価高騰の影響に対する経済対策の実施状況を記載しています。それぞれ事業内容を記載していますが、事業総額としては9億3,624万9,000円となっています。続いて、14ページです。地方消費税交付金の増収分の使途を記載していますのでお読み取りください。続いて、15ページ、森林環境譲与税の使途を記載しています。令和5年度では、8,895万7,000円を取り崩しており、下表の事業へ充当しています。続いて、16ページです。上段に11の特別会計決算の概要を記載しており、いずれも収支均衡または黒字決算となっています。また、中段以降に、公営企業会計決算の概要について、病院事業、下水道事業を記載しており、いずれも当年度純利益は黒字決算となっています。最下段に、比和財産区特別会計の決算状況を記載しています。17ページです。基金残高の状況を記しています。この中で、最上段の財政調整基金については、令和6年5月31日現在で46億円余りの残高となっています。最後に18ページです。普通会計における性質別・目的別決算額について、クロス集計表を記載していますのでお読み取りください。以上、簡単ではありますが、決算概要の説明とします。どうぞよろしくお願いいたします。

○赤木忠徳委員長 ただいまの説明について質疑があれば許します。質疑はありませんか。五島委員。

○五島誠委員 細かいことはこの後の分科会で質問をすればいいかと思いますが、1点だけ、総括的な

ところでお伺いしておきたいのが、2023 年度途中でやめられる方がふえて、本年度の当初予算の議論でもそうしたことが懸念されたわけですが、決算をされて、予算執行に当たってそうした中途退職の影響はどうだったのかということだけお伺いしておきます。

○赤木忠徳委員長 答弁。財政課長。

○福本敬夫財政課長 御質問にお答えいたします。人件費総額の影響という御質問でよろしいでしょうか。人件費に関しては、職員数の関係で、都度、9月補正なり12月補正で調整してまいったところですが、結果として、人事院勧告でプラスの勧告があった影響、職員給に関してそういうプラス要因があったことと、あとは、先ほど少し御説明したように、消防団員の報酬も改善したということで、人件費の総額に関しては、令和4年度と令和5年度の決算を比較すると1億3,500万円程度増額したという結果になっています。

○赤木忠徳委員長 他にありませんか。谷口委員。

○谷口隆明委員 先ほどの決算カードの説明のときに見たのですが、経常収支比率で、例えば、物件費や補助費の決算額は減っていますが、充当一般財源の物件費や補助費がふえていて、経常収支比率の上昇に影響していると思うのですが、この乖離はどういうことなのか、全体と一般財源の関係についてお聞きます。

○赤木忠徳委員長 答弁。財政課長。

○福本敬夫財政課長 御質問にお答えいたします。決算カードの、経常一般財源の性質別歳出の区分にあるように、谷口議員が御指摘のとおり、令和4年度の決算と比較して、物件費や補助費は、人件費も含めてふえている状況です。プラス要素としては、物件費の総額でいうと、例えば、除雪経費などが入っているのですが、特定財源が入ってくるということで一般計上経費には上がってこない。大きなマイナス要因としては、それが除かれているということがあります。それと、プラス要素として、市民会館の指定管理が令和5年度から元に戻ったことでフルの指定管理料が上がってきたことも大きな要因としてあります。補助費に関しても、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、いわゆる、人が集う細かいサロンのようなもの、敬老会事業も含めて小さな補助事業がだんだんと復活してきています。また、生活交通路線の確保事業、バスやタクシーを運行する費用が、乗客数を含め、なかなか元に戻ってこなかったといったプラス要因がありました。あとは、人件費に関しても、先ほども答弁したように、人事院勧告のプラス要素や消防団員の報酬改定の影響が出ています。

○赤木忠徳委員長 他にありませんか。吉川委員。

○吉川達也委員 基金についてですが、基金の運用はどういった形でされていますか。

○赤木忠徳委員長 答弁。財政課長。

○福本敬夫財政課長 基金の運用の関係です。概要の17ページに基金の一覧が出ていますが、現在のところ、基本的には、当該年度中に取り崩しの必要性があるかないかをまず担当課に確認をした上で、一定期間取り崩しの必要がないと判断したものについては定期運用をしています。

○赤木忠徳委員長 吉川委員。

○吉川達也委員 運用については取り崩し云々も関係あると思いますが、国債運用、あるいは債券運用などの考えはないということでしょうか。

○赤木忠徳委員長 答弁。財政課長。

○福本敬夫財政課長 御質問にお答えします。債券運用も、近隣の情勢など背景も含めて検討していま

すが、令和5年度は定期運用のみです。

○赤木忠徳委員長 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○赤木忠徳委員長 質疑なしと認めます。以降の審査は分科会で行うものといたします。これに異議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○赤木忠徳委員長 異議なしと認めます。本日はこれをもって散会いたします。

午後2時32分 散 会

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

予算決算常任委員会

委 員 長